

明和町の漁港

明和町の大淀地区と下御糸地区は伊勢湾に面し、約7.5kmの海岸線が延びています。

この地域は、古くから海運や水産業が盛んで、倭姫命の巡幸やまとひめのみこと じゆんこうに関わる白良浜しららハマ（濱田周辺）の伝承や大淀の地名由来ありわらのなりひら、在原業平の地元伝承からは、美しい海岸線や大淀が良港だったことがうかがい知れます。

現在、明和町には下御糸漁港と大淀漁港の二つがあり、約100名（准組合員も含む）が伊勢湾漁業協同組合に所属しています。

下御糸漁港

明和町川尻はらいがわの祓川河口部に位置し、津農林水産事務所管内に属します。漁港認定は昭和48年（1973）で、貝類の採取やのり養殖などが行われています。

大淀漁港

明和町大淀の大堀川の河口部に位置し、伊勢農林水産事務所管内に属します。

大正12年（1923）に河口部に突堤とつていが築かれ、航路しゆんせつが浚渫され漁船の出入りが改善されました。浚渫された土砂は埋立に利用され、物揚場ものあげば（船の荷を陸にあげる場所）や道路が整備されました。その後も、拡張造成などが加えられ、現在は貝類の採取や底引き網漁、のり養殖などが行われています。

漁港は、大淀祇園祭の打ち上げ花火の舞台で、三世古地区により山車だしを乗せた海上渡御かいじょうとぎよも行われるなど、港と地域の生活は切っても切れない関係です。



下御糸漁港



大淀漁港



昭和8年（1933）頃の大淀漁港内、海の向こうに業平松が見える。大西源一氏撮影



昭和30年（1955）代の大淀漁港
大西源一氏撮影

キーワード：漁港、漁業、海産物、海岸、海、大淀、下御糸